

「神の国はすでにきた」ーマタイによる福音書講解説教 57ー

イザヤ書 第49章 22節～23節
マタイによる福音書 第12章 22節～32節

説教 岡村 恒牧師

「神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。」(マタイによる福音書 第12章28節) 主イエスの口から、驚くべきことが宣言されました。主イエスが、人に本当の命と安息を与えるお方であることをはっきりと宣言なさったとき、そこには主イエスに対して敵意と殺意を抱く人々がいました。

「そのとき、人々が悪霊につかれた盲人で口のきけない人を連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を言い、また目が見えるようにされた。」(22節) 暗闇と沈黙の中で、絶望を味わっていた人が光の中に入れられ、神をほめ称えて祈るようによ変えられます。パリサイ人たちはこれを聞いて批判をします。彼は悪魔の力によって、悪霊を追い出しているに違いない。主イエスはこのような批判に対して言われました、「おおよそ、内部で分れ争う国は自滅し、内わで分れ争う町や家は立ち行かない。」(25節)

この日、主イエスは、はっきりと宣言をしてくださいました。「わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。」(28節) 主イエスが全ての人の救い主だ。聖書が語っていることです。主イエスは、神の子でありながら人となってこの地上に来てくださいました。その目的は1つです。私たちを罪と死の支配から解放して神を褒め称える者として生きるようにするためです。

これまで考えていたような考え方では、神の国に入ることもができないことを、主イエスは明らかにされました。律法を完全に守り、神のみ心に叶うような存在になって、自分の力で困難な道をわけ進むようにして、神の国に入ることもなど誰にもできないのです。

聖書で神の国というのは神の支配です。神が唯一その王国全体に力を持って支配をして下さるという話です。神に背を向けて歩き、暗闇の中でうごめく私たちを、神の子として生きるようにして下さる神の力です。あなたを解放して神の国に移したのは私だ。神のひとり子イエス・キリストが命を与え尽くして、十字架の上で死んだ以上、赦されない罪はないのだ。この救いの約束を拒む者以外のすべての罪は赦される、と主イエスは宣言して下さいました。

罪というと私たちはしばしば思い違いをし

す。聖書は罪を言い換えて、〈赦されざるもの〉と言い表します。まるで自分の命も時も宝も、人生が自分自身のものであるかのように思い違いをしている私たちの有り様自体が罪だ。終わりの日、神に捨てられ、永遠の滅びの中で嘆き叫ぶ。それが本来の、私たちの結末でした。

しかし、主イエスが来て下さり神の国が私たちのこの暗闇の世界に突入してきました。「だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。」(31節) これは驚くべき言葉です。ただ神のひとり子イエス・キリストの血のゆえに赦され、神の深いご慈愛のうちに入れられる。聖書全巻が、この福音を告げています。

主イエスは、殺意と敵意の中で、少しもひるむことなく私たちの救いの道を示してくださいました。救われた者は、主イエスにつながれた枝として溢れる命を受けて生きています。罪の赦しを信じ、主イエスによって神の子とされた。そう信じて生きる者は、主イエスに結び合わされたことを喜び、感謝しながら、神の手入れをいただいて葉をしげらせ、実を実らせて生きています。1つ1つの枝、1人1人が異なった葉の茂らせ方をし、違う仕方で実を実らせながら主を賛美して生きるのです。

神は私たちの地上の旅の中に様々な機会を用意し、様々な場面で光を照らしてくださいます。くり返し私たちが、神の救いの約束を聞き取り、どのような犠牲の上に、どれほど深い愛によって神の国に移されたかを思い起こすためです。誰でも主イエスを救い主と信じるなら、その人は死から命に移され、神の国を生きる者に変えられます。

神の国は終わりの日に完成します。あなた方の内に、あなた方のところに神の国はもうすでに来た。主イエスは終わりの日の食卓を見上げながら力強く宣言してくださいました。主イエスの約束は確実で、そのまま受け入れるべきものです。既に神の国が来ている以上、私たちは少しも立ち止まる必要はありません。主よ、あなたの御国、あなたの力の中で、この私を生かしてください。そう神のもとに進み出れば良いのです。主があなたに命を与え、祝福してくださいます。

(記 沖野俊行)